

こどもに-を-応援に-ただける皆様へ-

新年あけましておめでとうございます

新しい年がはじまりましたが、楽しいお正月をお過ごしでしょうか。昨年は、こどもに-が大きな飛躍するための準備の年でした。そして今年、それが実現する年になります。

その報告は、会報誌に掲載しているのゆえに、お読みください。

さて、フリースクールをはじめと8年が経ちますが、ふと見ると

20歳を迎えた子が毎年増えていることに気がさせられます。

大学に進学し、自分の夢に向かっている子、就職して、自分で稼いだお給料で生活する子など、それぞれ道を歩んでいます。

そして、(おはやくに顔を出しは、楽しいと悩んでいること)の近況報告をしていくのが、そんな時には、実家に帰ってきた子どもを迎える親の気持ちになることがあります。

「あの時〇〇だった子がこんなに立派になって...」と昔のその子を振り返りながら嬉しくなるんですよ。

今の私たちの願いは、(おはやくを築立、た子ども同士が) 将来も助けあえる関係にすることです。

そのために、(ただいま)と云え、「あつくり」と通い入れる居場所をつくり続けなさい。

そんなこどもに-を今年もよろしくお願ひします



# だんごむし



こども  
の  
おもてなし  
感ばにー

～いつも仲間と一緒にいて、驚くほどココロ丸くなると可愛。だんご虫は、子ども達の大切な友達～



## あーだこーだの過程・工程・プロセス

新年あけましておめでとうございます。

今年は長いお正月休みの方が多いようですが、楽しいお正月をお過ごしでしょうか

昨年は、プレーパークとフリースクールの移転を決断した年でした。そして、多くの方のお知恵とお力添えによって実現への道が開けた年でした。

みなさんが応援してくれて、それを楽しいと思ってくれて、あらためて「支えられているんだな～」と感じています。心からの感謝しかありません。

今年は、なにもない更地に、子どもや地域の大人と一緒に考えながら新たにプレーパークをつくっていく、とてもワクワクの一年になります。

その名も“ごちゃませプロジェクト”

そして、今年のこどばにーの漢字は



これまでも、プレーパークはみんなで少しずつつくってきました。つくっては壊しを繰り返してきたので完成図はありません。

みんなのエッセンスを織り交ぜて、練り合わせて…あーだこーだ言いながらつくる『プロセス』を大切にしてきました。プロセスのなかにこそ、発見、創造、挑戦、達成感、時にはケンカして落ち込むなどなど

とがあり、これらは、子ども達の育つための大切な力になっていきます。

私はこの『プロセス』は宝物だと思っています。

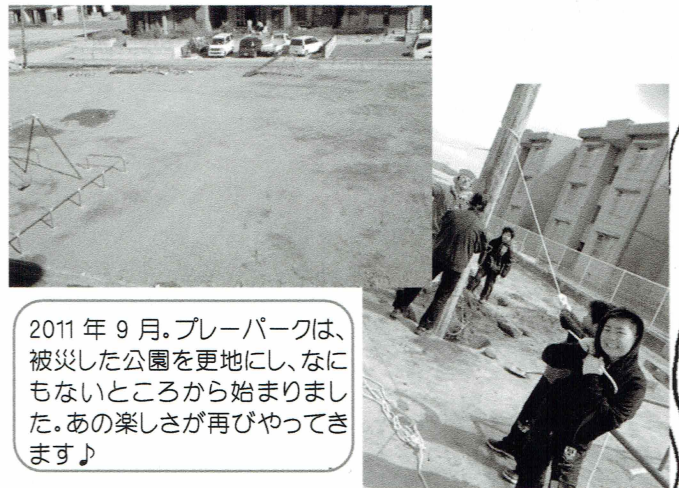
土地探しで走り回っていた夏に、プレーパークの常連男子に、移転の構想を話しました。

そしたらその子は、一人で土地を探し始め、プレーパークで会うと、お互いの土地情報を報告しあっていました。

新天地では、無農薬で野菜を育て、ヤギを飼い、カブトガニを田んぼに解き放ちたいそうです。

そして最近、ウズラを家でふ化させ、ヒナから育て始めた彼ですが、新プレーパークが完成したら連れてきてみんなで育てるんだって～。

夢は膨らみ、まだまだ大きくなるな～こりゃ～(笑) なにもないところから、どんなプレーパークがつけられていくか楽しみにしててくださいね～



2011年9月。プレーパークは、被災した公園を更地にし、なにもないところから始めました。あの楽しさが再びやってきます♪

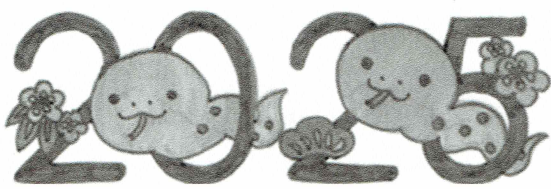
むちゃくちゃ楽しいことが待ち受けていますよ～ そんなこどばにーを、今年もよろしくお祈りします。

代表理事 田中雅子(通称:けろ)



☆認定 NPO 法人こども∞感ばにー(愛称:こどばにー)とは…

2011年の東日本大震災後、宮城県石巻市の地域の大人とともに子どものあそび場づくりをきっかけに活動が始まりました。私たちは“子どもの笑顔が地域のなかで育まれるまちに”を理念に、地域のみんなと一緒にプレーパークやフリースクール事業を行っている団体です。



# スタッフからの ごあいさつ

新年あけましておめでとうございます！昨年も多くの方々に支えられながら、私たちの活動を進めることができました。本当にありがとうございます！  
本年も、スタッフ一人ひとりの2025年の抱負をご紹介します。新年の挨拶とさせていただきます！

## 田中雅子(けろ)

統括リーダー



撮影:小6IROIRO♡

子どもが笑うとわたしも笑う。私が笑うとみんなも笑う。とにかく楽しく前進あるのみ♪

## 塩田大介(なおたろう)

児童クラブ担当



気づけば今年は38歳。成人となり18年。体重もあの頃より18kg増えました。痩せなきゃ

## 千葉拓己(ロッキー)

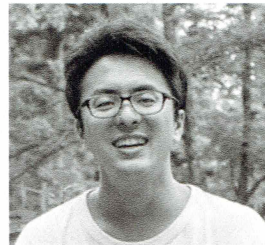
フリースクール担当



今年は三十路の年。年齢とともに体も心も仕事もレベルアップします。

## 佐藤和幸(わこう)

フリースクール・広報担当



担当が変わりましたが、変わらずがんばりま〜す(^^)

新スタッフ

## 野津裕二郎(ゆうじろう)

ごちゃまぜプロジェクト担当



誰よりも失敗し、誰よりも這い上がる!!!

## 勝又大海(かつちゃん)

プレーパーク担当



今年も自分自身が楽しみながら現場に入ります！

新スタッフ

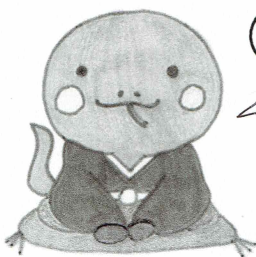
## 今野由美(ちゃんゆみ)

ごちゃまぜプロジェクト担当



自分の人生を生きる2025年にするぞー!!!

新スタッフからのご挨拶をPTでもご紹介しているので、ぜひご覧ください。



## 菊田元子(もっちゃん)

児童クラブ担当



来年も、心にゆとり  
をもって笑顔で1年  
過ごしたいです！

## 横山彰子(ふった)

児童クラブ担当



ケガも病気もしな  
い元気な支援員  
でいたい。はて？  
年金受け取りいつ  
からにしよう？

## 吉川結衣(ゆいちゃん)

児童クラブ担当



ホッと落ち着くすき  
ま時間を大切に、穏  
やかに過ごしましょ  
う〜♪

## 米倉勝巳(よねよね)

児童クラブ担当



からだもこころも  
笑える一年にでき  
たらいいなあ

## 田畑つばさ(つばっさー)

児童クラブ担当



鬼ごっこで勝ちた  
いので早く走る練  
習をします。

## 高梨萌都(もっさん)

児童クラブ担当



今年は学生最終年  
なので、楽しみなが  
ら満喫したいと思  
います！

## 阿部美由貴(みーさん)

事務局担当



2025 年も、感謝の  
気持ちを忘れずに、  
笑顔で頑張ります。

## 栞谷和子(かづこ)

資金調達担当



とにかくやってみて、  
ふりかえる！  
上向きながら！

毎週火・木・金曜日  
10:00～16:00  
当会事務所1階で開催  
体験無料  
減免制度あり

フリースクールの活動の様子は  
こちらから



## 意外な一面がみられた日

石巻市で夏に開催された“川開き祭り”に出店した子どもたち。前回のだん子むし(Vol.44)でもお伝えしましたが、川開き祭りでは、目標としていた売上額・販売個数には届きませんでした。そんな子どもたちの様子を知った、大崎にある『フリースペース道』(『不登校』の受け入れをしている団体)の方々から、「大崎の音楽祭でも、ハーブソーセージを売りませんか!？」と、声をかけていただき、『岩出山有備館の森公園 伊達な音楽祭』にて出店してきました!



お店の宣伝をしてくれる伊達政宗様  
(甲冑体験をする子どもたち)

今回は、川開き祭りには都合が合わずに参加できなかった子どもたちも参戦! 川開きの話



耳に挟みながらも参加できなかった分、準備から気合十分な様子! 日頃ははっくで過ごしている時は、あまり前に出ないような子も、ソーセージ完売に向けてガッツリ声出し。

残り4本になると、「もっと声をかけて来る!」と、看板をもって会場で歩き回り始めました。すると、数分も経たないうちに「この人が買ってくれるって!」と、最後のお客さんを連れてきました!

その人は、実は一度ソーセージを買ってくれた人でした。再度買ってくれた理由を聞くと、「ソーセージ美味しかったし、何よりこの子が頑張ってる声をかけていたからねえ」と子どもの頑張りを話していました。

非日常の場では、日頃見せない姿がみられることがあり、そして子どもにはそれぞれが成長するタイミングがあります。

この子も、「初対面の人に声をかける」という、自分の殻を一つ破ることができました。

イベントの主催であり、子どもたちに成長の機会をくださったフリースペース道のみなさん、ハーブソーセージを購入して下さったみなさま、本当にありがとうございました! (ロッキー)

## 「久しぶり」の関係性

石巻市渡波にある『BeOne アカデミー』という、外国籍の子どもたちがホームスクーリングをしている団体さんとの交流会を行いました!

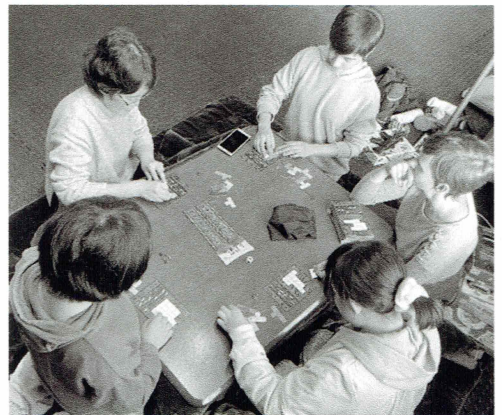
BeOne さんに設置されているクライミングウォールで遊んだり、鬼ごっこやボール遊び、ボードゲームを通して交流しました。

実は今回の交流会で3回目。前回までで仲良くなった子は、お互いの名前を呼び「久しぶり〜!」と声をかけ合っていました。

この「久しぶり」という言葉。凄く大切だなと思います。

学校に行かない選択をした子どもたちの多くは、『家庭』or『フリースクール』という狭いコミュニティで過ごしています。フリースクールに通えていたらまだ多い方かもしれません。

「久しぶり」が言える関係性が増えると、子どもたちのコミュニティがどんどん広がり、さまざまな価値観に触れる機会も増えますね! (ロッキー)



うほほ〜い

# ピカリこらむ

学校に行かない・行けない子どもについて、けるがメッセージをお届けするコーナー  
そしてここでは、彼らを“ピカリちゃん”と呼びますね。  
理由はどんな子どももピカリと輝いているから

## 『不登校』という魔法の言葉

### 其の11

みなさん、『不登校』という言葉聞いてどんな印象を持ちますか？

『不』はマイナスのイメージを抱かせる文字ですね。学校は誰もが行く場所として子どもは理解育ちます。でもその「誰もが」からはみ出してしまったら、その子はどんな気持ちになるでしょう。

先日、小学生の頃からプレーパークを利用している中学生の常連っ子が学校を休むようになり、お母さんが相談にきました。

学校でのトラブルに悩み続ける我が子を見てきたお母さんは、家で過ごすのではなく、こどばにーのフリースクールで他の子どもたちと過ごしてほしい…そんな想いをもっていました。

相談を受けていたのがプレーパークだったので、

私はその子に「ぼはっくに来てみたら？」という、「俺は『不登校』じゃない。『不登校』は学校に行けないやつで、俺は行こうと思えば行ける。一緒にしてほしくない」と、答えました。

文部科学省の定義では、30日以上休むと『不登校』の枠に入ります。昨日までは『不登校』でないのに、30日目の今日から『不登校』になってしまう。それはどんなに悲しくて子どもの心を傷つける瞬間なのか…。その子の気持ちは私には図り切れません。学校に行かなくなるまで、多くの子は悩み苦しみます。保護者もそうです。

学校に行かないことを選択しても、それは悪いことじゃない。苦しまなくていいんだよ〜

そう、誰もが思えるように、この魔法の言葉は早くなくしたいですね (ける)



## ほっかざ! 児童クラブ

大人も一緒に遊ぶと…

●放課後児童クラブとは  
保護者が就労等により家庭に不在の子ども(小1~小6)を放課後や長期休みに預かり、家庭に代わる遊びや生活の場を提供する児童福祉事業です。  
学校や地域、保護者と連携し家庭の子育てを支援します。

児童クラブには、土曜スペシャルデーという日があります。今回は、浜松公園へ歩いて出かけた時のこと。

「みんなー！よねよね持ち上げるからこっちに座ってー」と子どもたちの声が。

片方のシーソーに5,6人の子どもたちが次々に座り始め、よねよねを持ち上げようとしていました。私は、「シーソー折れないかな…」とドキドキしつつ見守っていましたが、本当に持ち上がった瞬間は、大きな笑いとおどろきに包まれました。

公園からの帰り道、道端に懐かしい『ひつつき虫』が。あの服にくっつく植物です。それを見つけた低学年の女の子たちは、先頭を歩いているよねよね

のフードにこっそり『ひつつき虫』をくっつける遊びを始めます。よねよねは背が高いので、フードにひつつき虫を届かせることは難しいです。子どもたちは試行錯誤して何回もチャレンジしていました。

普段は子ども同士で遊ぶことがほとんどですが、大人も遊びに加わることで、大人相手にチャレンジする姿や試行錯誤を巡らせる姿が見られるんだなぁと感じました。忙しい中で子どもと遊ぶ機会をもっと増やしたいなと日々を振り返りました。

(もっちゃん)



# プレーパークわたのほ ひがこ

【プレーパークわたのほ】  
毎週金曜日 15:00~17:00  
毎週土・日曜日 10:00~16:00  
所在地:石巻市渡波字黄金浜 157

詳しい場所や  
プレーパーク  
活動の様子は  
こちらから  
↓↓↓

【プレーパークひがこー】  
毎週水曜日 15:00~17:00  
所在地:石巻市鹿妻南2-7  
(鹿妻東公園)



## わた

### 第一回 SASUKE 大会

「これから SASUKE 大会をしない？」という中学生の男の子の声掛けにその場にいた子たちが「いいね～」と賛同したことで SASUKE 大会が開催されました。

「俺はコースを考えるから参加する人は 30 分後にウッドデッキに集合ね」と男の子が言い、走るコースを紙に書き始めました。その後、集まった 10 名ほどの子どもに男の子は、土管と地面に半分埋まったタイヤを飛び越え、すべり台を上り下りし、倉庫を登って上に立つまでの時間を競うというコース説明を行い、実況役・解説役・計測係を決め、準備ができた人からスタート！

「〇〇頑張れ～」という声援を受けながら走り、ゴールをしたら計測係に時間を書いてもらいます。

大会の様子を見て「参加したいけど、倉庫に登るのは難しい」と言う女の子には、すべり台の上にとったらゴールという特別コースを急遽つくり、晴れてその子も



飛び入り参加！

全員が走り終わった後に表彰式が行われ、一番早かった男の子には、賞状の代わりに参加者リストと拍手が送られました。

大会後、言い出しっぺの中学生は、「とっさに思いついたイベントだったけど、みんなが楽しんでくれて嬉しかった」と言っていました。私はやってみたくてすぐに実現できるプレーパークって良いなと思いました。(かつちゃん)

## ひがこー

### 焚き火と見守りの目

ひがこーでは、毎週のように焚き火をしています、なかには家から食べ物を持ってきて焼いている子がいます。

先日、卵を持ってきた 3 人の子どもが「目玉焼きをつくる！」と火をおこしました。

卵を焼いていると、1人が「箸がない！」と気づきます。どうするのかなと思い見ていると、その子はナタで薪を細く割り即席の箸を作りました。

他の2人も持ってきたみかんを先に食べ、その皮をスプーンのように使い上手に卵を食べています。

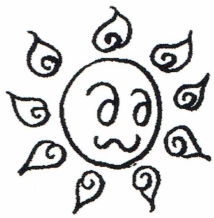
「家で焼くのととは違う味がするね」と言いながら半熟の目玉焼きを口に運ぶ子どもたちを見て、『遊び』が育む子どもの力はすごいものだな～と思いました。

火を使って遊ぶのはとても楽しいことですが、火事や

やけどのリスクも伴います

私たちは、『危険だからダメ』ではなく、正しい火の使い方やリスクを丁寧に伝えながら、子どもたちの枠にとらわれない自由なアイデアを見守りたいと考えています。(かつちゃん)





# スタッフ紹介



10月からこども∞感ばにースタッフとしてプレーパークわたのはで働いている仲間を紹介します！  
多様な経験を持つフレッシュで個性豊かな自己紹介をご覧ください！



## 野津 裕二郎(ゆうじろう)

ゆうじろうです。石巻に住んで13年。牡鹿半島で妻と息子、鶏14羽と暮らしています。

リハビリ職(作業療法士)とケアマネージャーの資格がありますが、最近ではプレイワーカーとして子どもたちのそばに居させてもらっています。

プレイパークで出会うひとり一人のその人らしさと向き合い、対話して関係性を築いていきたいと思ひます。

障がいの有無に関わらずのびのびとその子らしく遊び過ごせる空間(インクルーシブパークとプレイパークの融合型)が、石巻ではありふれた日常になる事を目指して活動していきます。特技は、固定概念を壊す事です。

## 今野 由美(ちゃんゆみ)

みなさんこんにちは！新しくお世話になります、ちゃんゆみこと今野由美と申します！

こどばにーの一員になれて、子どもたちの日常の中に身を置けることを、とても嬉しく思ひます。

こどばにーの子どもを真ん中に捉える視点が、いつも素敵だなと感じていました。そして何より子どもたちにいろいろな力があること、それを私たち大人がいかに活かせるか、信じられるか、それをいつも自分に問ひていきたいと思ひます。

サポートしていただひてる皆さまや、スタッフの方々、そして子どもたちと対話をしながら、こどばにーが子どもにとって、安心な場所であられるよう微力ながら頑張り



たいと思ひます。

これからどうぞよろしくお願ひします！

感性豊かな、子どもへの目線がとても温かい二人です。  
これから、「ごちゃまぜプロジェクト」の活動を一緒につくっていく仲間です。  
みなさんとはプレーパークでお会ひすると思うのでよろしくちゃんでーす





# ごちゃまぜプロジェクト

赤ちゃんからお年寄りまで、誰もががつどえるプレーパークが新たな場所で始まります。

その実現に向けて2024年の春から動いていて、今回は報告『其の3』です。

この数か月、前に進もうとすると、面白いくらいにハードルが目の前にやってきます。おかげで様々な法律に詳しくなりました(笑)

スムーズに実現するよりも、いろいろあるから面白い！その『いろいろ』をご紹介しますね (ける)

## やっと土地に出会えた♪



前号では「新たな土地とまだ出会えていない」とお伝えしましたが、**出会えましたよ～♪**

土地の広さは、750坪。実はこれ、第一段階で、第二段階もあります。

私たちが希望する“民家は少なめで、森から聴こえる鳥のさえずり、山から吹く風が気持ちいいところ。大声で笑えて、かまどで火を焚いて料理が

できて、木登りもできる…。ぴったりの場所です。

11月上旬に土地の持ち主さんと会えて、プロジェクトの説明をして、賛同してくれて、とっても優しい方で嬉しくなりました♥

以前は田んぼとして使っていて、その後畑になった土地は、その方の生活を支えてきた大切な場所でした。なにもないこの地で、これから始まろうとしているみんなでつくるプレーパーク♪



## 畑を雑種地にへんしーん



<sup>い3</sup><sub>い3</sub> 土地と出会えてワクワク♪でしたが、次に待ち構えていたのが土地の転用申請。

基本的に、農地は作物をつくる場として法律で守られています。だから農地以外の目的で使用する場合は手続きが必要とのこと。しかも、その一部は県知事の許可が必要です。こういう法律があるから、日本の農業が守られてきたんだな～と学びつつ、申請手続きを来年早々に進めていこうと申請書づくりに気合がはいる私です。

## 建物が建てられない？



次は、建物を建てるための大きな壁。出会った土地は“市街化調整区域”で、平たくいうと、新たに家を含めた建築物を建てられない区域です。

これは都市計画法に定められていて、建てるにはプレーパークが『例外』として認められないといけないのですが、プレーパークの概念は、法律のなかにはなく、その他の条件もクリアできませんでした。

あーんなってこった～ これじゃ子どもの居場所が建てられない～と、一晩落ち込みました。法律の壁は大きかった…

## 新たな道を発見！



でもね、**全然大丈夫♪** 素敵な方法を見つけちゃいましたよ～

それは、“**ビニールハウス大作戦♪**”

これが実現するとプレーパークの夢が広がるかも♪ワクワク♥



詳しくは次号のお楽しみ♪  
私は準備を進めていきますね～



# いざ！子どもの権利条約フォーラムへ♪



昨年、東京で2日間開催された“子どもの権利条約フォーラム”に、子ども3名と参加してきました。子どもの権利をテーマに、子どもが登壇する話を聴き、ワークショップに参加したことで、“子どもの権利”に触れることができました。

小学4年生のAちゃんは、フォーラム参加前に「学校の先生が、クラスの外国籍の子を差別するような発言を授業中にしたのはおかしいと思った。だから先生に自分の意見を伝えたいけど、伝わらなかった」と話していました。

子どもの意見表明に対して、向き合ってもらえなかった少し残念な話です。

しかし帰りの車内で、「今度は教頭先生に話してみようと思う」と、今回のフォーラムが『自分が正しいと思ったことを伝える』ことへの背中を押してくれたようです。

2023年に子ども基本法が施行され、“こどもまんなか社会”とうたわれ始めましたが、私は、子ども

“だけ”が大切にされる法律ではなく、子どもも大人同様、意見表明をしてよくて、守られる存在であり、権利をもつ存在であることが書かれていると理解しています。そして大人は、子どもをひとりの『人』として受け止め、向き合うことの大切さをうたっているのだと思います。

子どもは生まれた時から自分の意見を持っています。それは、どの成長段階でも同じです。

私は、子どもと一緒に考え、時には悩み、喜び合える…そんな社会を想い描いています。(けろ)



## 私、子どもアドボケイトにないまーす

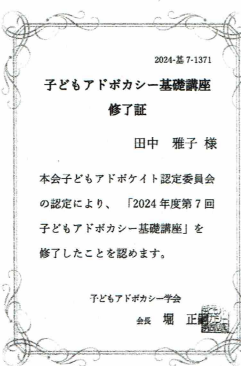
みなさん、子どもアドボカシーって知っていますか？子どもたちの声を聴き、意見表明を支援したり代弁する活動を言います。そしてその人を“アドボケイト”と呼びます。

まだ日本では聞きなれない言葉ですが、子どもが大人にSOSを伝えていたにも関わらず、虐待により命を落とした事件が相次ぐなか、2019年から厚生労働省が子どもアドボカシーの制度化に向けて検討をはじめ、2022年に子どもアドボカシー学会が設立されました。

子どもの声は弱く、大人や社会に届きづらいのが実情です。

こどぱにーは、子どもの代弁者というミッションを掲げ活動していますが、これから“アドボケイト”という言葉を用いる機会が増えそうです。

実践編をただいま受講中～♪(けろ)



## 活動が認められて…“♡”

こどぱにーの活動に対して、国際ソロプチミスト石巻様より“クラブ賞”をいただきました。

受賞は、こどぱにーの活動が認められた証でとても嬉しいと同時に、子どもが置かれている現状を伝える機会をいただけたことに感謝申し上げます。

田中代表(右)に賞状や副賞が贈られた



や行政、学校と連携しながら不登校や貧困、テルで行われ、伊藤さん長から田中さんに賞状

新聞切りぬきました。詳しくは同封記事や

# 地域で子どもが遊ぶ！

## 地域食堂&秋祭り開催！

今年はおこばに一含め、渡波かたろう会、渡波まちづくりに協議会、NPO 法人のさりさんと渡波秋祭り実行委員会を立ち上げ、地域食堂と秋祭りを合同で開催しました。地域食堂のメニューは具材を自分で選ぶおにぎり・味噌玉みそ汁とフランクフルト。子どもたちは楽しそうにおにぎりを握り、中にはどんぶり一杯分くらいの爆弾おにぎりを作る子もいました。



秋祭りは毎年恒例の子ども出店に加え、地域の方の出店や黄金浜で一番丸太を切るのが早いのは誰なのかを競い合う丸太早切り大会とキックボクシング体験会などイベントが盛りだくさん！

初めて体験した男の子は「普段思いつきパンチやキックをすることがないからストレス発散になった」と言っていました。来年も地域の方と子どもが交流できる地域食堂&秋祭りを開催できるといいな。(かつちゃん)

# 同じ想いを 人たとの まーいね

まーいね

一人ひとりが満足できた時間

●まずは石巻から「不登校」という言葉をなくしたいネットワーク

(愛称:まーいね)

「子ども一人ひとりが、自分にあった学びの場に出会い、安心して暮らせる社会をつくる」を理念に、2021年5月に設立。多様な分野の市民が集って活動しています。

今年で4回目となる『不登校』シンポジウム。

今回のタイトルは「すべての子どもたちに学びの機会を～一人ひとりの学び方～」でした。いや～、長いタイトルですね～(笑)シンポジウムのお知らせをする時も「長いな～」と思いながら入力していました(笑)

しかし、それだけ伝えたいこと・みんなで考えたいことがたくさんあったということ！

今回は、フリースクールぼはっくに通っていた子と、通信制高校のサポート校に通っている子2名によるトークセッションや、他の自治体の先進事例紹介などを行いました。

また、シンポジウム後には、親の会(『不登校』の子をもつ親御さんが、お互いの体験や不安・悩みを共有する会)も開催。

参加者の多くから、「当事者の体験談を聞いたこと」、「他の保護者の話を聞き、悩んでいるのは自分だけではなかったと感じられた」と、満足の声が聞こえてきました。



参加者同士のシェアリング

『不登校』の数は増え続け、2023年度は全国の合計が34.6万人でした。毎年増えている今、より一層『不登校』への理解が広まる必要だと感じています。(ロッキー)

## 渡中学区 WWI

### 1,200本の松に愛を込めて

東日本大震災の津波により壊滅状態となった渡波長浜海岸に、渡波中学校の校木「松」の苗木を生徒や保護者、住民のみなさんが植樹しました。今回 WWI は、そのサポートです。

松は、私たちが活動する渡波地区のシンボルで、震災前は長い海岸沿いに植えられ、風や砂の浸食から町を守ってくれていたそうです。

その松を再び植樹することで『郷土愛』を育みたい…そんな願いがこもった植樹プロジェクト、素敵ですよ～

WWI メンバーで元 PTA 会長のつづやきを紹介しますね (ける)



子どもの頃から親しまれたあの景色。海沿いにあった渡波中学校舎から見たあの景色、あの空気、いつまでも我々の心に刻まれています。松林を歩く生徒たちを見て懐かしい！今回特別な機会をいただいて、次の世代、また次の世代へと繋がっていくんだな～って、なんか良かったです。

## みやネット

### 交流合宿開催！

みやネットに加入しているフリースクールの、1泊2日交流合宿を開催！

場所は「松島自然の家」。スタッフさんに教わりながらランチ作り、アイスブレイクや体育館貸し切りのレクリエーション、ナイトハイクなど、普段なかなか経験できない交流プログラムを行いました。

参加人数はなんと 30 名！

最初は関わり方がぎこちない子どもたちでしたが、アイスブレイクの交流プログラムが始まると、過ごしずつ子ども同士の関わりが増えていきました。

2日目になると、バレーボールやバドミントンなどの運動、囲碁やボードゲームなどのまったり遊びを、団体の垣根を



### ●多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク

(愛称:みやネット)

県内のフリースクールや不登校親の会 6 団体で 2019 年 4 月に設立。

教育機会確保法を基に、多様な学びの環境やその必要性を官民がともに学び、不登校の子どもと親をサポートする仕組みを考える任意団体です。

越えた交流ができました！ぼはっくの子たちも、他のフリースクールの子たちも、「楽しかった！」と満足気な様子^^

今回の交流会は、『学校に行かない選択をした』という同じ境遇をもつ子ども同士の交流という、とても貴重な機会でした。

今回のような交流会を継続して開催することで、子ども同士の繋がりや関係性が更に深まり、自分たちで計画を立てるなどができるようになるかなと感じられた、今後に繋がる素敵な交流会となりました！

今回の交流会は、宮城県生涯学習課さんのご協力のもと実施することができました。ありがとうございました。(ロッキー)

# 事務局からのお知らせ

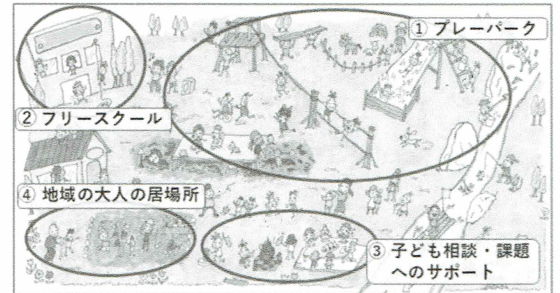


## “みやぎチャレンジプロジェクト”に挑戦中！

多世代が集い・つながる『子どもと地域住民の居場所』をつくりたい！

誰もが安心して来られる、そして、つながる『居場所』を『0』からつくり、地域住民とともに子どもを支え『子どもの孤立』を防ぐことを目指します。名付けて『ごちゃませプロジェクト』。目標金額達成のために、ご支援・ご協力をお願いいたします。

目標金額：200万円！（期間：12月1日～2月28日）  
※詳細は同封のチラシを、ご覧ください！  
ご協力をお願いいたします！



ごちゃませプロジェクト  
の詳細はこちら



クレジット寄付  
はこちら



## チャリティー絵画展開催のご案内

こどばにーの活動を広く知ってもらい『共感と支援の輪』を地域に広げるため、以下の日程でチャリティー絵画展を開催します！  
※詳細は同封のチラシをご覧ください。

【日 時】2025年3月7日(金)～3月9日(日)10時～18時

【会 場】マルホンまきあーとテラス 小ホール・小ホールホワイエ

【入場料】無料

追加情報や最新のご案内は、決まり次第 SNS やホームページでお知らせいたしますので、お楽しみに～♪



※イメージ写真



## 年末年始のお休みのお知らせ



いつも、温かいご支援・ご協力ありがとうございます。  
本会では下記日程を年末年始休業とさせていただきます。

12月28日(土)～1月6日(月)

年始は、1月7日(火)より活動いたします。



こどばにー通信「だん子むし」発行元



認定 NPO 法人  
**こどばにー**

宮城県石巻市鹿妻南 2-1-7

Mail: info@codopany.org

Tel: 070-2436-8517 (事務局)

HP: <https://codopany.org/>

◎継続サポーターのお願い

こどばにーの活動をみなさまのお力で支えてください。

サポート金額は月額 300 円から♥  
子どもが第三の大人とつながり、安心して過ごせるセイフティネットの場づくりにご協力ください。

詳しくはこちら



◎活動報告の配信

☆こどばにーのこといろいろ  
(けろの独り言も配信)

●Facebook

●Instagram



「いいね」してね♥



2024年(令和6年)11月25日 月曜日

# 「ごどばにー」にクラブ賞

## ソロプチ石巻 児童取り巻く課題に対応

国際ソロプチミスト石巻(伊藤裕子会長)は19日、ソロプチミスト日本財団の本年度社会ボランティア賞に推薦された認定NPO法人「ごども∞(無限)感ばにー(略称・ごどばにー)」代表理事の田中雅子さん(56)に、クラブ賞を贈った。

東日本大震災後にボランティアとして来石し、被災地の子どもの遊び場作りの重要性を感じたことから石巻市に移住。平成25年に「ごどばにー」を設立した。現在もプレーパーク事業や不登校児の居場所となるリースクール事業を展開し、地域や行政、学校と連携しながら不登校や貧困、

虐待など子どもを取り巻く地域課題解決に向け、活動している。昨年末は草の根活動を行う女性リーダーをたてる「チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞」のファイナリスト5人にも選ばれた。ソロプチミストの表彰式は石巻ランドホテルで行われ、伊藤会長から田中さんに賞状

や副賞が手渡された。田中さんは表彰に感謝し、子どもを取り巻く地域の現状と課題を説明。「ごどばにー」に来る児童の中には、家庭の事情でいつもお腹を空かせていたり、お風呂に何日も入っていない子どもや声に出せないSOSを発出している子どもがいるが、これは氷山の一角。全ての子どもが健やかに成長できるよう地域や市全体で方策を立てて取り組むべき」などと提起した。

【山口紘史】

田中代表(右)に賞状や副賞が贈られた



# プレスリリース

こどぱにーの支援者・応援者の皆さまへ

こども∞感ぱにーチャリティー絵画展実行委員会

## こども∞感ぱにーチャリティー企画 現代巨匠絵画展 アートで広がる「共感と支援の輪」 —来年3月7日～9日までの特別な3日間—

当実行委員会がほるぷA&I(株)の協力のもと、120点の現代巨匠絵画を展示し、売上の11%がこども∞感ぱにーの寄附となるチャリティー絵画展を開催します。

多彩な実行委員会メンバーによるワークショップ、アート展示、マーケットを同時開催し、地域の芸術家や、子どもたちの作品展による「共感と支援の輪」を広げます。



写真はイメージです

### <チャリティー絵画展について>

日時：2025年3月7日(金)～3月9日(日)まで 午前10時から午後6時まで

会場：マルホンまきあーとテラス 小ホール ・ 小ホールホワイエ

主催：認定NPO 法人こども∞感ぱにーチャリティー絵画展実行委員会

協力：株式会社ほるぷエーアンドアイ 等

### 内容

- (小ホール) 現在、国際的な活動を続ける国内外の画家の作品(油彩、水彩、版画)を中心に、ピカソ、シャガール、東山魁夷など一流画家の作品を120点ほど展示します。  
※展示作品は購入予約を承ります。
- (小ホールホワイエ) 企画の趣旨に賛同する方々のアート展示、ワークショップ、マーケット、こども∞感ぱにーの活動紹介や寄付の呼びかけ等のブース設置。
- 収益の一部が主催団体の運営資金と、能登半島支援に還元されます。

その他:入場は無料です

《プレスリリースについてお問合せ》

認定NPO法人こども∞感ぱにーチャリティー絵画展実行委員会 実行委員長 塩田恵利子

Tel: 080-3098-4766

Mail:[codopany.art@gmail.com](mailto:codopany.art@gmail.com)

## 寄付者アンケート のお願い

いつもこどばにーを応援してくださ  
り、ありがとうございます。

私たちの活動や発信において、より  
充実した情報をお届けするために、  
みなさまの声をお聞かせください。

お忙しいとは思いますが、アンケート  
回答へのご協力をお願いします。

ご回答は  
コチラから→



1/20(月)まで  
ご回答  
をお願いします

こ  
ど  
ば  
に  
ー  
か  
ら  
2  
つ  
の  
お  
願  
い



## メールニュースご登録 のお願い

12月からメールニュースの配信が始  
まりました！

こどばにーのニュースや子どものエ  
ピソードなど、ホットな話題をお届  
けします。

配信ご希望の方は下記QRコードか  
らご登録ください。

ご登録は  
コチラから→



※既に届いている方は登録不要です

ご登録  
をお願いします

